2022年度下半期 活動報告

イベントレポート

館蔵品特別鑑賞講座 ～浮世絵編～

日時：2022年11月26日(土)　14：00～15：30　参加人数：6名

今回は展示中の「『鎌倉殿』と武将たち」展に合わせ浮世絵を取り上げた講座で、河内えり子学芸グループ長がとても分かりやすく解説してくださいました。

特に印象に残ったのは、葛飾北斎の肉筆画2点。「田植図」は北斎84歳の作。頭に弁当包みを乗せた女性と亀を引っ張っている男の子。その向こうには笠を被って田植えをする人々…。何とものどかでほほえましい光景に心癒されます。「着衣鬼図」は北斎89歳（亡くなる前年）の作。「人生を悟ったような赤鬼の表情は北斎の心境を語っているようだ」との解説が。この「着衣鬼図」は佐野美術館の創立者・佐野隆一翁が自ら求め、今日まで大切に収蔵されてきたという経緯を伺いました。今、私たちが「北斎」をこんなに近くで鑑賞できるのは、美術館の皆さまのおかげ、と感謝の気持ちでいっぱいになりました。他に、歌川国芳、月岡芳年の木版画数点を鑑賞。丁寧な解説付きで、たっぷり浮世絵に浸った貴重な時間でした。

（ミューズクラブ運営委員　野村 晴香）

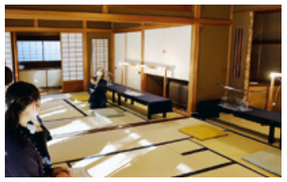
館蔵品特別鑑賞講座 ～日本刀編～

日時：2023年1月28日(土)　14：00～15：30　参加人数：9名

さわやかに晴れ上がったこの日、埼玉、東京、浜松など遠方より来られた方々をお迎えして佐野美術館恒例の館蔵品特別鑑賞講座～日本刀編～が開かれました。講師は刀剣界の第一人者、当美術館理事長の渡邉妙子氏です。

『刀の反りは時代によりどのように変化したか』との参加者からの問いに答える形で、鉄の歴史から始まり、中国や西洋の直刀が日本人独特の工夫により曲線を描くようになったこと、そして奈良時代から平安、鎌倉、南北朝と時代を経るに従い変化した経緯をわかりやすく説明いただきました。この講座の特色は、普段ガラス越しでしか見られない名刀を間近で鑑賞できる点です。また、今回は特別に3名の参加者が、実際に手に取って名刀を鑑賞しました。袱紗を持って作法を教わりながら若い女性が刀を手にして鑑賞する様子はまさに文化そのもの、他に得難き贅沢なひと時でした。折しも美術館では「乱世を駆け抜けた名刀」展を開催中で、織田信長、徳川家康等ゆかりの名刀が展示されており、こちらも大盛況でした。

（ミューズクラブ運営委員　梅原 秀宣）



佐野美術館　展覧会情報

写真展
「オードリー・スタイル 飾らない生き方」
2023年 4月8日（土）－ 6月18日（日）

とびだせ！長谷川義史展
2023年 7月1日（土）－ 8月27日（日）

ミューズクラブ会員　募集中

●正会員：1万円
●ゴールド会員：2万円
●特別会員：10万円

ミューズクラブでは会員を随時募集しています。年間パスポートの発行やショップでの買物1割引（商品によっては割引出来ない場合があります）、会員限定イベントの開催など様々な特典があります。詳しくはミューズクラブ事務局**(TEL055-975-7278)**までお問い合わせください。

新規入会者（2022年9月1日～）　※敬称略、50音順

ゴールド会員　小澤龍子、小林修
正 会 員　竹内孝幸、中村奈保子、中村幸夫、伴もと子、渡辺郁子

Number 31 2023.03
佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報　ミューズ交歓
2023年3月号／第31号
発行日／2023年3月31日　編集・発行／佐野美術館賛助会ミューズクラブ
〒411-0838　静岡県三島市中田町1-43　TEL:055-975-7278　FAX:055-973-1790　ホームページ：https://www.sanobi.or.jp/

佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報

ミューズ交歓

佐野美術館と皆さまをつなぐ

Number 31 2023.03
Muse Club Magazine
SANO ART MUSEUM

2023年度 活動予定

イベントスケジュール

2023年度に開催されるイベントをご紹介します。皆さまのご参加をお待ちしております。
諸事情により変更や中止となる場合があります。

会員のつどい

日　　時 ： 4月29日（土・祝）15：00〜18：00
会　　費 ： 2,000円（会員／一般共通）
定　　員 ： 40名（要申込・先着順）
会　　場 ： 佐野美術館講堂
出　　演 ： 柳家さん光（やなぎやこう）（落語家）

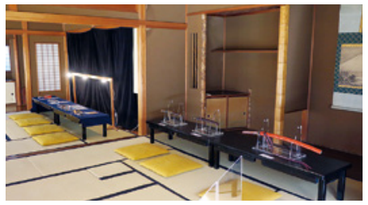
年度初めに行う総会「会員のつどい」。前年度の活動報告と新年度の活動計画の発表後、落語をお楽しみいただけます。令和５年度は柳家さん光さんをお招きし、演目を２題ご披露いただきます。落語家の柳家さん光さんは、2009年に柳家権太楼師匠に弟子入りし、2013年に二ツ目に昇進しました。
落語は噺の最後に「オチ」がつくのが特徴です。噺家はその場で動かずとも、身振り手振りと表情で噺を進め、その巧みな表現力で、聞き手は場面や景色などを想像します。
また、落語では必須の扇子とてぬぐい。噺家が様々な小道具に見立てて落語を盛り上げます。扇子は箸や筆、キセルなど。てぬぐいは財布や手紙など。噺家の技巧で、さらに私たちの想像力が広がります。
会員同士の交流はもちろん、柳家さん光さんから落語の世界のお話も聞いてみましょう。

芸術鑑賞日帰りバス旅行

日　　時 ： 7月20日（木）7：30〜19：00
会　　費 ： 会員13,000円　一般14,000円
定　　員 ： 40名（要申込・先着順）

美術館を巡りながら、会員同士の交流や美術に関する見識を高める芸術鑑賞日帰りバス旅行。
令和５年度は、浜松市秋野不矩美術館等を巡ります。秋野不矩美術館は、日本画家　秋野不矩の作品を鑑賞できるだけでなく、美術館の建物も作品と調和がとれるように設計されており、その特徴的な空間も楽しめます。ランチはヤマハグループが経営する「葛城北の丸」で、四季折々の厳選された食材を使った「四季彩昼膳」をお召し上がりいただく予定です。
じっくりと美術に触れる一日を過ごしてみてはいかがでしょう。

館蔵品特別鑑賞講座



2021年度の様子

日　　時 ： 11月中のいずれか1日（1回目）
2024年2月中のいずれか1日（2回目）
14：00〜15：30
会　　費 ： 会員2,000円　一般3,000円
定　　員 ： 20名（要申込・先着順）
会　　場 ： 佐野美術館庭園内「隆泉苑」

佐野美術館の収蔵品を会員の皆さまにじっくり堪能していただく館蔵品特別鑑賞講座。年に2回開催するうちの1回は日本刀編を予定しております。講師の解説とともに、普段展示ケース越しでしかご覧いただけない当館の作品を間近でご覧いただける貴重な機会です。作品の迫力を是非感じてください。

第18回ミューズクラブ ゴルフ大会

日　　時 ： 5月17日（水）8：00〜17：00
会　　費 ： 会員2,000円　一般3,000円
プレー代 ： 8,500円
定　　員 ： 16名（4名×4組）
会　　場 ： 芦の湖カントリークラブ

佐野美術館創立者・佐野隆一翁ゆかりの歴史と伝統のあるゴルフ場、芦の湖カントリークラブで開催する会員親睦ゴルフ大会です。富士箱根国立公園内に位置し、晴れた日には眼前に富士山、眼下に駿河湾が広がる最高のロケーションです。
コースは適度なアップダウンを繰り返す自然の地形を活かした丘陵コース。標高も高く空気が澄み、雄大な景色が広がる中、快適にプレーをお楽しみいただけます。また、クラブハウス内にあるレストランの食事は、種類も豊富で美味しいと評判です。
プレー後の表彰式では、参加者全員に美術館ならではの賞品をご用意しております。ビギナーや女性の方もお気軽にご参加ください。

十三夜の宴

日　　時 ： 10月27日（金）17：00〜20：00
会　　費 ： 会員3,500円　一般5,000円
定　　員 ： 100名（要申込・先着順）
会　　場 ： 佐野美術館庭園内　※雨天の場合は中止

今年度はフラメンコ音楽
ユニット「フラメンコロイド」さんを
お招きする予定です

十三夜の夜に開催する、月と音楽をたのしむ「十三夜の宴」。佐野美術館の敷地内にある国の登録有形文化財「隆泉苑」の庭園で行う野外コンサートです。毎年ジャンルを変え、幅広い音楽をお届けしております。秋の風情を感じながら、月明かりの下、ご家族・ご友人と一緒に美しい調べをご堪能ください。
恒例の抽選会も行います。美術館ならではの記念品にもご期待ください。

歌舞伎座鑑賞日帰りバス旅行

2018年度の様子

日　　時 ： 2024年1月中のいずれか1日
会　　費 ： 会員22,000円　一般24,000円
定　　員 ： 47名（要申込・先着順）

以前好評をいただいた「歌舞伎座鑑賞日帰りバス旅行」を5年ぶりに計画いたしました。新春に相応しい華やかな舞台と豪華な役者陣の迫力のある演技を一等席からお楽しみいただけます。お芝居以外にも、役者気分を味わえる歌舞伎座ギャラリーやお土産処がずらりと並ぶ賑やかな木挽町広場、歌舞伎座屋上の日本庭園など見どころがたくさんあります。

※各イベントの募集は開催日の約 1〜2ヶ月前から行います。
※会員の皆さまは随時お届けしておりますイベントチラシをご確認の上お申し込みください。

EVENT イベント情報
佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報
ミューズ交歓
佐野美術館と皆さまをつなぐ

2022年度下半期
活動報告

イベントレポート

2022年度下半期には３つのイベントが開催されました。

十三夜の宴

日　　時 ： 2022年10月8日（土）17：00〜19：00
参加人数 ： 77名

「宴は月と共に」
10月8日、令和4年度の十三夜の宴が隆泉苑庭園で催されました。コロナ警戒で音楽のみ、飲食は無しとなったのはやむを得ません。
演奏は二胡の沈琳（シェンリン）さん、ピアノのMAKI code “M” さん、パーカッションの仙道さおりさんの特別編成トリオでした。
比較的暖かな日に恵まれ、松葉の緑、色とりどりの照明に染まる松の幹と闇を背景に、トリオの美しい音楽が響きました。スペイン語で箱を意味する打楽器カホンに腰掛けたさおりさんはジャンベ、シンバル、ウィンドチャイム、シェイカー、サイレンホイッスルなど20種類近くの楽器を両手両足・口まで使って打ち鳴らし、大忙し。二胡の繊細な響きとピアノの音に誘われたかのように、叢雲の間から十三夜の月が輝きました。
音楽的にも視覚的にも美しい宴だったことが心に響き、当日の東名高速道路の事故による大渋滞で会場入りが遅くなってしまったにもかかわらず、時間通りの演奏をしてくれた奏者の3人に感謝感激でした。
良き哉、十三夜の宴。

（ミューズクラブ運営委員　小林 俊）